

Newsletter

2016.3.17

立教大学全学共通
カリキュラム運営センター

「全学共通科目」、いよいよ始まります。

全学共通科目の理念と仕組み

全学共通カリキュラム運営センター部長／文学部教授 佐々木一也

2016年度から全学のカリキュラム体系がRIKKYO Learning Style（立教大学学士課程統合カリキュラム）に移行することに伴って、従来の全学共通カリキュラム（通称、全カリ）は2015年度以前1年次入学者への適用となる。2016年度以降1年次入学者にはRIKKYO Learning Styleが適用され、その中に全学共通科目が含まれる。ここでは全学共通科目の理念と仕組みについて概要を紹介する。その前に今回のカリキュラム改革に伴う全学共通カリキュラム運営センター（以下、全カリセンター）の役割変更の確認をもしておきたい。

全カリセンター所管カリキュラムと「全カリ」名称の意味

RIKKYO Learning Styleで全カリセンターの所管するカリキュラムは、全学共通科目、グローバル教養副専攻、および旧カリとなる全学共通カリキュラム（全カリ）である。全学共通科目およびグローバル教養副専攻の運営は全カリセンターが担うが、従来の全カリと異なり、それらの一部に学部等の構想したものがある。従来の名称「全カリ」はカリキュラムと運営組織の両方を意味してきたが、今後は運営組織（全カリセンター）のみを意味することになる。カリキュラム名称は「全学共通科目」であり、その読み替えによって旧カリの全カリが経過措置として維持される。

RIKKYO Learning Style と全学共通科目の理念

従来のカリキュラムでは専門と全カリの2本柱が軸だったが、RIKKYO Learning Styleでは学部カリキュラム（以下、学部カリ）のみの1本柱となる。その際、学部カリは専門だけでなく、新たに全学共通科目を融合的に含み込むことになった。このことは、4年間の学士課程を専門の積み上げと全カリの広がりや並行履修するという考え方から、学士課程を「導入期」「形成期」「完成期」の3期に分け、それぞれに立教大学のあらゆる教育資源を複合的に投入し、各期ごとの教育とそれら相互の連携を強く意識して、学生を社会人へと育成するという考え方へ移行することを意味する。核となる専門性は、全学共通科目と融合することによって多方面への適

用力を増すのであって、その意味でRIKKYO Learning Styleは「専門性に立つ教養人の育成」という目標を従来以上に強く実現する仕組みになっている。

このことは、従来から全カリセンターをハブにして全カリを共同運営してきた10学部の専門性とその応用力が、学部カリの内部にさらに緊密に組み付けられたことを意味する。しかも、4年という長いスパンを前提にするのではなく、導入期の半年、形成期の1年半～2年、完成期の1年半～2年という時期ごとの目標に沿って進められるゆえに、専門性と教養の融合がより緊密になり、その経過が途中で確認可能になる。その結果、10学部が全学共通科目の担当を介して連携することが、個々の学部カリとしての専門の応用力を広げ、学生1人ひとりの関心や目標に沿ったキャリア形成に資する学士課程教育を創出し、ひいてはRIKKYO Learning Styleの成果を際立たせることが期待される。

全学共通科目の構成

全学共通科目を構成する科目群を挙げると、言語系科目と総合系科目に二分される。

言語系科目：「言語A（英語）」「言語B（初習言語）」「自由科目」

総合系科目：「学びの精神」「多彩な学び」「スポーツ実習」

これらの科目群のカリキュラム上の位置づけ、つながりについては、以降に示されるカリキュラムイメージ、及び総合、言語の各チームリーダーによる紹介を見ていただきたい。

全学共通科目のナンバリング

RIKKYO Learning Styleの3期区分対応を明示するために科目ナンバリングを導入する。言語系科目では「言語A」「言語B」の必修部分には1000番台、中級レベル「自由科目」は2000番台、上級レベル「自由科目」は3000番台が付けられており、履修に必要な学力レベルを表示している。総合系科目では「学びの精神」「スポーツ実習」に1000番台、「立教ゼミナール発展編」（「多彩な学び」として開講）に3000番台が付けられる他は「多

目次

全学共通科目の理念と仕組み	佐々木一也 (1)
新たな言語系カリキュラムの紹介	新野 守広 (2)
新たな進化を遂げた総合系カリキュラム	中島 俊克 (3)
言語B検定試験受験料補助制度、始まります。	(4)
大学教育学会2015年度課題研究会参加報告	林 英明・藤野 裕介 (5)
2016年度からの新たな「全学共通カリキュラム運営センター」を紹介します。	(6)
2015年度全学共通カリキュラム運営センターの主な活動	(7)

「多彩な学び」に2000番台が付けられている。総合系科目は専門科目と結びついて生きる科目であるが、学生にとって専門外分野でもあるので、形成期以降いつでも履修できる「多彩な学び」には2000番台レベルの入門部を持たせている。しかし、3000番台、4000番台レベルの内容も含んでいるので、3000番台以上の専門科目との緊密な連携が可能である。

グローバル教養副専攻

グローバル化を進める立教大学の教育姿勢を鮮明にして、学生たちにグローバル化を意識した学修を促すために、学部カリ学修と重ねて、RIKKYO Learning Styleでは全学共通科目と専門科目を学部カリと交差するテーマでパッケージ化したカリキュラムの履修を学生に推奨

する。それがグローバル教養副専攻 (RIKKYO Minor Program) である。“Arts & Science Course”、“Language & Culture Course”、“Discipline Course”からなる。そのすべてが共通に第1系列 (日本発信科目)、第2系列 (基幹科目)、第3系列 (言語力科目) の構成を持ち、外国語関係の学修が組み込まれている。その他、海外体験を必須としており、海外で日本理解をも広めることができる「専門性に立つグローバル教養人」を育成する。

以上が、RIKKYO Learning Style への移行とともに全カリセンターが中心となって新たに支えることになった全学共通のカリキュラム (全学共通科目) の概要である。

2016年度以降の全学共通科目 (カリキュラムイメージ)

	構成	1年次必修科目	2年次以降
言語系科目	言語 A (英語)* ¹	英語ディスカッション1, 2 英語リーディング&ライティング1, 2 英語プレゼンテーション 英語 e ラーニング	自由科目
	言語 B	～語基礎1, 2* ² 大学生の日本語 A ～ D * ³	自由科目* ⁴

*¹ 一定以上の英語力を持つ学生には、別途、上級クラスが用意されている。

*² 「～語」は、それぞれドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語 (文学部のみ選択可) と読み替え。

*³ 外国人留学生のみ選択可。

*⁴ 言語必修科目履修免除 (単位認定) 者は、1年次から当該言語の自由科目を履修できる。また、第3の言語として他の言語 B の1言語について「基礎～語入門」「基礎～語初級」を履修できる。

	科目群	カテゴリ、等	履修期
総合系科目	学びの精神		導入期 (1年次春学期)
	多彩な学び	1. 人間の探究	形成期 (1年次秋～2年次秋学期) 及び、完成期* (3年次春～4年次秋学期)
		2. 社会への視点	
3. 芸術・文化への招待			
4. 心身への着目			
5. 自然の理解			
6. 知識の現場			
スポーツ実習	スポーツプログラム スポーツスタディ	全期	

*「多彩な学び」で開講する「立教ゼミナール発展編」のみ、完成期での履修を推奨する。

新たな言語系カリキュラムの紹介

全学共通カリキュラム運営センター 言語教育科目構想・運営チームリーダー/異文化コミュニケーション学部教授 新野 守広

2016年度から学士課程統合カリキュラムが導入され、全学共通科目総合系科目がリニューアルするのに合わせて、学生により良い学習環境を提供するために言語系科

目でも、以下の2点のカリキュラム改訂を行います。

①言語 A (英語) では、主として1年次を対象とする必修カリキュラムでリテラシースキルを重視する

「リーディング&ライティング」科目を開設するとともに、履修免除を廃止して上級クラスを導入し、また必修科目不合格者向けの再履修クラス（「英語 R」）を設置します。

②言語 A（英語）と言語 B のドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語では、現在開設されている言語副専攻制度に代わってグローバル教養副専攻制度を導入します。

総合系科目の大胆な改訂に比べると言語系科目の改訂はやや細かいと思われるかもしれませんが、言語教育には 1 人ひとりの学生のレベルに合わせた肌理の細かい学習環境が必要ですので、そのために上記の改訂を実施しました。

こうして 4 月からスタートする 2016 年度全学共通科目言語系科目の全体像は、前ページのカリキュラムイメージのようになります。

本学に入学した学生は、まず 1 年間にわたって必修科目として言語 A を週 3 回、言語 B を週 2 回、集中的に学びます。言語 A の場合には、入学時に新入生全員がプレースメントテストを受け、その結果をもとに能力別クラスに配当されます。1 人ひとりの学生が入学後の英語力の伸びを把握し、2 年次以後のそれぞれの学力に見合った学習計画を自分で立てるように、毎年 12 月には英語力伸長度測定テスト（TOEIC® IP）が学内で実施されます。学生は e-ポートフォリオ（「立教時間」）などを通してフィードバックを得ることになります。

言語 B の場合は、原則的に入学時に履修希望を申請した言語の初習クラスに配当されます。入学以前に修得している言語を履修する場合、検定試験の証明書と面接結果をもとに履修免除が受けられ、自由科目の基礎科

目・コア科目の履修が認められる場合もあります。

言語 A、言語 B とも、必修科目を修了した 2 年次以降の学生は、自由科目の履修を通して、各言語の継続的・段階的な学習を進めます。国際化が進む現在、母語のほかに複数の言語を習得する意義はますます高まっています。2016 年度の新カリキュラムからは、これまで設置されていた言語副専攻制度（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語）に代わって、それぞれの言語能力を伸ばすように設計されたグローバル教養副専攻がスタートし、各言語の特色を活かした“Language & Culture Course”が開設されます。

グローバル教養副専攻を修了するために必要な海外体験の認定には、上記 6 言語で自由科目として開設している夏期海外言語文化研修のプログラムを利用できます。これらの海外研修プログラムを使って異文化を現地で体験し、多彩な自由科目、講義科目、学部展開科目を利用して、一層の言語能力アップを図るとともに、当該言語が使われている文化圏の社会や制度を学ぶことができるのも、グローバル教養副専攻のすぐれた特徴です。

また、自由科目には日本手話も開講されています。日本手話はろう者の母語であり、日本語とは異なる文法体系を持つ独自の言語です。これを学ぶ学生は、外国語を学ぶことと同様に、異文化理解の機会を得て、自己と他者の関係へのより深い理解を得るでしょう。

このように 2016 年度の言語系カリキュラムでは、1997 年以來の全カリ言語教育の実践と成果を踏まえ、従来にも増して学生の目線に立った肌理の細かい教育が実施できるカリキュラム改訂を行いました。4 月からの新入生を心待ちにしています。

新たな進化を遂げた総合系カリキュラム

全学共通カリキュラム運営センター 総合教育科目構想・運営チームリーダー／経済学部教授 中島 俊克

2016 年度新カリキュラムのいわゆる「全学共通科目」のうち、我々「全カリ総合」チームが編成にあたる部分について、これまでと大きく変わった点を以下に記す。

第 1 のポイントは、「立教科目」「領域別科目」の区分けが廃止され、「多彩な学び」に統合される一方、RIKKYO Learning Style の全学方針に合わせ、導入期（1 年次春学期）向けに「学びの精神」を、また完成期（3～4 年次）に推奨する科目として「立教ゼミナール発展編」を設けたことである。受講者の側から見ると、我々が提供する科目のうち新入生が履修できるのはこの「学びの精神」と「スポーツ実習」のみとなり、その他の科目（「多彩な学び」）の履修は 1 年次の秋学期以降になるというのが、最大の変更点である。

第 2 のポイントは、科目展開の体系性を保つ観点から全カリ総合の本体とは別立てになっていた「総合自由科目」の枠そのものを廃止し、この枠内で展開されていた「グローバル・リーダーシップ・プログラム」、「国際協力人材」育成プログラム、「立教サービスマーケティング」などのプログラムを、新たに設けられた「多彩な学び」の第 6 カテゴリ「知識の現場」に移して、これらを新たに全学共通科目の卒業要件単位に算入するとした点であ

る。これまで、単位にはなっても自由科目としてしか扱われていなかった学外での様々な活動が、卒業要件単位として明確に位置づけられれば、学生諸君はそうした活動により積極的に向き合うことになる。

第 3 のポイントは、グローバル教養副専攻の展開に合わせ、この趣旨に沿った「日本関係科目」（J 科目）を多数展開するとともに、英語で授業が行われる科目「外国語による日本研究科目」（F 科目）を今まで以上に多く設けたことである。これまで F 科目といえどもっぱら留学生向けで、受講に際しては極めて高度な英語能力が前提とされていたのであるが、今回これに加えて設けられた新たな F 科目は、日本人学生が英語で日本のことを発信できるようにするという、グローバル教養副専攻“Arts & Science Course”の趣旨に沿う形で、英語能力が中程度の学生も無理なく受講できるよう設計されている。海外に出て積極的に学ぼうとする学生諸君を後押しするのが狙いである。

その他、細かいことで新しくなった点は数知れないが、大きな変更点にのみ触れた。100 年以上に及ぶ立教の教養教育の伝統を踏まえつつ、時代の要請に合わせ、総合系カリキュラムは今後も進化を続けていく。

言語 B 検定試験受験料補助制度、始まります。

全学共通カリキュラム（2016年度より全学共通科目）は、多文化の共生を視野に入れた「異文化理解」を深めるとともに、異なる文化に属する人々とコミュニケーションを取ることができる「言語運用能力」の修得を目指すという理念の下、「英語を含む2言語必修」を採用しています。スーパーグローバル大学創成支援事業の採択を受け、英語については2014年度12月実施分より、英語力伸長度測定テスト（TOEIC® IP）受験料が無料になり、学生自身の英語能力の把握、英語学習の促進に役立てられています。そしてこの度、言語 B（初習言語）の検定試験受験料補助制度がスタートすることとなりました。言語 B は、入学後にいちから学ぶ学生がほとんどです。検定試験は、1年間でどれだけの力がついたのかを試す良い機会となるでしょう。留学を目指す場合には制度を活用して、自分の実力をはかりましょう。制度の概要は以下のとおりです。

開始年度	2016年度	
対 象	全学部生	
補助金額	2,500円（年1回）	
受付期間	春学期・秋学期 各1回・5日間（予定）	
対象試験 ※試験の可否は問いません。	ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 4級 以上 Goethe-Zertifikat（ゲーテ・インスティトゥートの検定試験）Start Deutsch 2 以上
	フランス語	実用フランス語技能検定試験 3級 以上 DELF/DALF（フランス語力認定試験）A2 以上 TCF（フランス文部省認定フランス語能力テスト）
	スペイン語	スペイン語技能検定試験 4級 以上 DELE（外国語としてのスペイン語検定試験）A2 以上
	中国語	中国語検定試験 4級 以上 漢語水平考試（HSK）4級 以上
	朝鮮語	「ハングル」能力検定試験 3級 以上 韓国語能力試験 TOPIK II
	ロシア語	ロシア語能力検定試験 4級 以上

～手続方法～

1) 各自で受験料を支払い、検定試験の申込をする

補助申請には、受験料を支払ったことを証明できる書類（領収書等）が必要です。
証明書類は無くさないようにしましょう。

2) 検定試験を受験する

3) WEB で受験料補助申請をする

申請期間中に専用 WEB* から必要事項を入力し、
補助申請をしましょう。

4) 受験料支払証明書類を大学に提出する

5) WEB で審査結果を確認する

申請が認められた場合、補助金が後日振り込まれます。

【問い合わせ先】

教務部全学共通カリキュラム事務室

Tel: 03-3985-2910

（言語系科目担当）

* 専用 WEB の詳細が決定次第、全カリウェブページで公開します。

【大学教育学会2015年度課題研究集会参加報告】

(2015年11月28日(土)～11月29日(日) 於：岩手医科大学矢巾キャンパス・岩手大学)

課題研究シンポジウム「学士課程教育における共通教育の質保証」に参加して

教務部全学共通カリキュラム事務室 林 英明

大学教育学会では、2013年度から「学士課程教育における共通教育の質保証」というテーマで課題研究に取り組んでいる。本学においても2014年に同課題研究の代表者である、大阪府立大学の高橋哲也教授をお招きし「全カリにおける学習成果の把握と質保証について*」というテーマでシンポジウムを開催した実績があり、本課題研究の最後の成果発表となるシンポジウムに関心を持って参加した。

本課題研究は、「1. 共通教育における学習成果の直接評価」「2. 数理科学分野における共通教育の質保証」「3. 共通教育における学習成果の間接評価」「4. 共通教育の質保証のためのマネジメント」という4つのサブテーマから構成されており、今回のシンポジウムでは、それぞれサブテーマの統括者から報告が行われた。その中でも特に筆者が関心を持ったサブテーマ3について、以下に報告を行いたい。

サブテーマ3では、共通教育における直接評価（客観的な学力）と間接評価（学生の自己評価における到達度）における相関は存在するのか、また直接評価と学習時間の相関はいかなるものであるかといった2点について問題設定を行い、調査・研究をしている。学習成果の把握にあたっては、学士課程共通教育プログラムの成果を検証するクイズ（直接評価）と自己評価（間接評価）から成る調査票を開発し、2015年に5大学の学生を対象に調査を実施している。

研究成果の発表では、英語に関するクイズの正答率と自己評価の関係が示され、英語の自信の程度と英語の正答状況との間には相関傾向が存在するとのことであった。

また、授業内、授業外の学習時間の多寡とジェネリックな客観テストの正答数に相関関係は確認できないとのことであった。これについては、回答者に1、2年次生が多く、高校までの学習の成果が影響を与えている可能性が示された。

次に本研究に関する筆者の所感を簡単にまとめる。本調査では、学習成果の評価対象のひとつとして英語の能力・スキルを取り上げているが、ほとんどの大学生にとって英語は大学における初習言語ではなく、中等教育までに学習をしている言語である。また、学習時間との関係についても、上記のとおり高校までの学習成果の影響を統制できていない。このため、大学の共通教育における学習成果という研究の枠組みにおいては、1時点における直接評価・間接評価だけではなく、入学時とその後といったように2時点の変化を調査・分析するなど、さらに継続的な研究が必要と思われる。

一方で、直接評価と間接評価を併用した調査と、その関係性を分析するといった意欲的な研究の視点は参考となった。本学においても教学 IR 部会において「学修状況調査」を実施し、学生のパネル調査（継続調査）の開発を行っているが、学内の各種データを統合し、直接評価と間接評価の関係性を検証することで、新たな発見が期待できるのではないかと。

* 立教大学全学共通カリキュラム運営センター 2015『大学教育研究フォーラム 第20号』pp.20-41に筆録を収録している。

晩秋の盛岡で考えたこと

教務部全学共通カリキュラム事務室 藤野 裕介

2015年度の課題研究集会は岩手医科大学、岩手大学を会場に開催された。初日の基調講演、開催校企画シンポジウムは岩手医科大学矢巾キャンパス（矢巾町）で、2日目の課題研究シンポジウムは岩手大学（盛岡市）でおこなわれ、開催のあいさつによれば、複数大学での実施は課題研究集会として初の試みのようである。

基調講演では、岩手医科大学理事長・学長の小川彰氏による多職種連携と徳育にかんする講話があった。多様な医療系専門職では職種を超えた連携が求められる。医療の現場で患者や家族に寄り添った治療をほどこすには、医療従事者の高い倫理感に加え、多職種連携によるコミュニケーションの円れたスムーズな医療活動こそ必要とのことだ。医療の高度化が進むほどに専門職は細分化され、それだけに専門職の連携協力が求められるという。岩手医科大学では、学部時代から他領域を学ぶ学生と共同プロジェクトに取り組み、自己の職種に対する自尊心を持ち、あわせて他の職種に対して尊敬の念を持つことを多職種連携教育として実施している。

講話によれば、多職種連携教育は医療系学部において徳育としての意義が大きいという。岩手医科大学は明治30年に設立された岩手医学講習所に始まり、120年余りの歴史を有す。設立以来、徳育の重要性を医療教育の中で説いてきた伝統があり、今般の多職種連携教育と密接に結びつくものであるという結語であった。

さて、今回の会場、岩手医科大学は私立（学校法人岩手医科大学）、岩手大学は国立大学法人である。岩手医科大学矢巾キャンパスは真新しい白基調の建物が美しく、医学部を擁する大学の風格が漂う。一方の岩手大学、盛岡駅から北上川と市街地を越えると趣ある古い建物が佇むキャンパスにたどり着く。宮沢賢治センターが入る百年記念館、農学部附属動物病院など、地域に根ざした大学の雰囲気をかもし出す。それぞれが地域社会での役割を自覚しているかのようにも感じられ、異なる大学での協働開催もまた、異法人連携、地域連携の具現化であり、大学における連携の可能性を示唆するものに映った。

2日目の早朝、透きとおる青空を冠した岩手山、雄大に流れる北上川に目をうばわれた。東北地方の中心都市として歴史と伝統に培われた盛岡の街を歩くと、地方都市ならではのオリジナリティに目が留まる。北東北随一の規模を誇る創業150年の地場百貨店「川徳」、創刊140年余の地元紙「岩手日報」、盛岡市民のソウルフードと称されるコッペパン「福田パン」など、地域に根ざした街の暮らしが印象深い。

大学の国際化、グローバル教育の推進、とかく海外を意識した声絶えず聞かれる昨今である。確かに海外に出て見聞を広めることは必要だろう。しかしながら、千差万様に豊かな日本国内を知ること、体験すること、学ぶこともまた、大切なことといえる。地球市民として世界規模で物ごとを捉えるグローバルな視点、地域市民として地に足を着けて活動できるローカルな視点、まさにグローバル (Glocal) 教育として両者をバランスよく育む (Think globally, act locally) ことが結果として大学の真のグローバル化につながるのではあるまいか。地方都市の魅力に触れながら、地域社会での大学の役割、そして大学のグローバル化について、気の向くままに思慮を深めた盛岡であった。

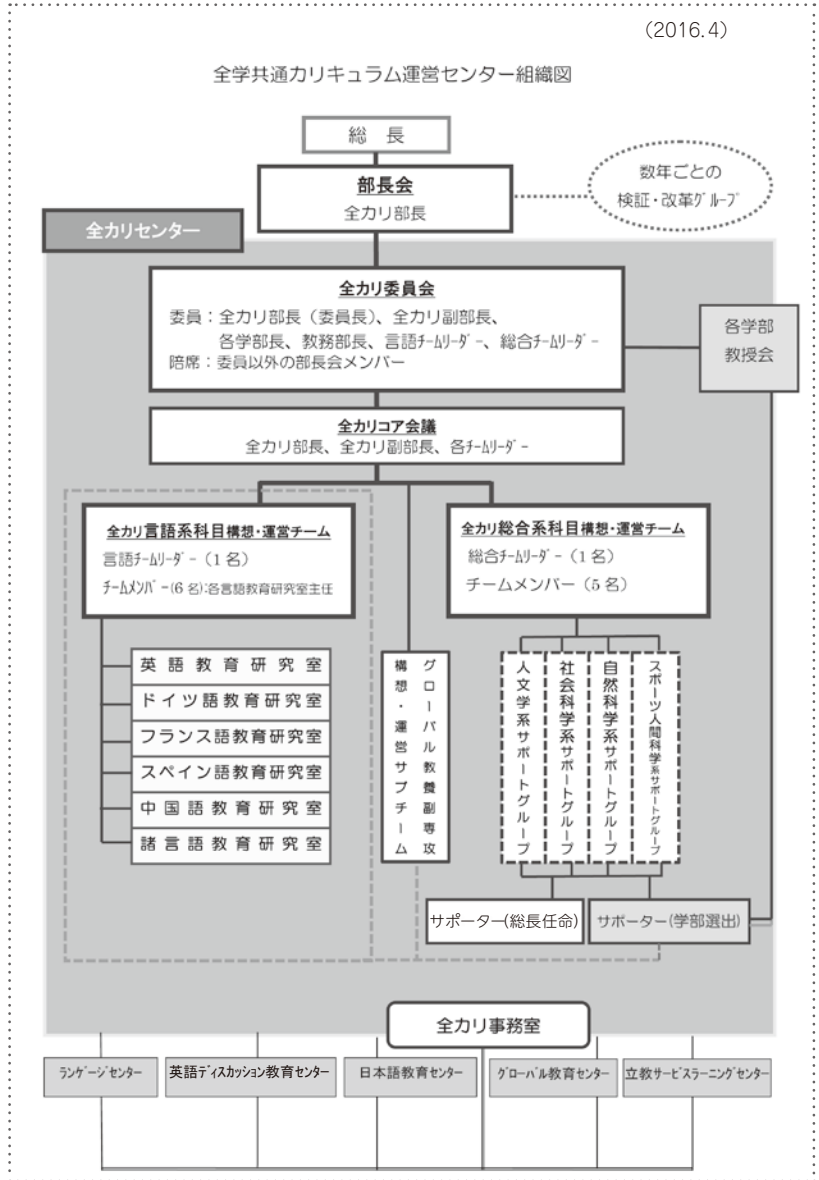
2016年度からの新たな「全学共通カリキュラム運営センター」を紹介します。

1997年に誕生した全学共通カリキュラム運営センターは、2016年4月から“全カリ3rd ステージ”の運営を担うこととなります。2016年度から始まる RIKKYO Learning Style（立教大学学士課程統合カリキュラム）では、旧来の学部（専門教育）と全カリ（教養教育）という分け方を廃し、各学部による学士課程統合カリキュラムとして融合を試みます。10学部それぞれによるカリキュラムが誕生し、専門、教養といった見え方はなくなり、新たに学びの段階として、導入期（1年次春学期）、形成期（1年次秋～2年次秋学期）、完成期（3年次春～4年次秋学期）が用意されます。全カリ運営センターが担う「全学共通科目」、学部が担う「専門教育科目」が有機的に統合された「学士課程統合カリキュラム（＝RIKKYO Learning Style）」の幕開けです。

このような学士課程統合カリキュラムにおける全学共通科目は「言語系科目」、「総合系科目」と称され、その構想運営は全カリ運営センターが担うこととなります。全学共通科目は全カリ運営センターがもつぱら設置する科目に加え、科目やカリキュラムを提供する学内内部局、また学部や研究科が全学向けに設置する科目がゆくゆく誕生する可能性を念頭においています。全カリ3rd ステージにおける全カリ運営センターの役割は、全カリという自由なステージを用意し、学部、全カリ、その他学内内部局等が、協働しつつ科目やカリキュラムを豊かに創造する場の主催者です。全カリ部長とは、その協創のステージの進行役を務めます。

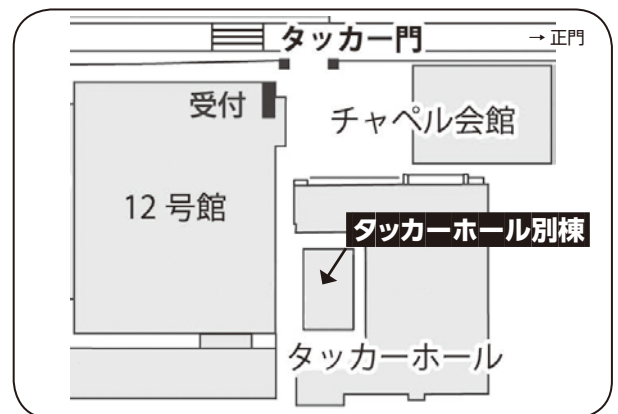
新たな全カリ運営センターでは、言語系科目構想・運営チーム、総合系科目構想・運営チームに加え、2017年度から本格的な始動を予定するグローバル教養副専攻（RIKKYO Minor Program）の構想運営を担うグローバル教養副専攻構想・運営サブチームを新設します。

右記は、組織体制のイメージです。



《全カリ事務室のご紹介》

全カリ運営センターの事務局として、教務部全学共通カリキュラム事務室（通称、全カリ事務室）がタッカーホール別棟2階にあります。カリキュラムの構想や相談を受けつけています。教職員のたまり場（＝サロン）として、積極的にご活用ください。



2015年度 全学共通カリキュラム運営センターの主な活動

* 2016年2月現在。3月に開催されるものは予定です。

<言語教育科目構想・運営チーム>

①英語教育研究室

- ・ 4月3日(金)英語eラーニングオリエンテーション
(池) 8号館8501教室 9:30~10:30
- ・ 4月3日(金)新任教員オリエンテーション
(池) 4号館4342教室 11:00~12:00
- ・ 4月3日(木)春学期FDセミナー
(池) 4号館4342教室 13:30~15:30
- ・ 12月5日(土)秋学期FDセミナー
(池) 10号館X301教室 13:30~15:30
- ・ 12月19日(土)第16回大柴杯スピーチコンテスト
(池) 5号館5122教室 14:00~16:00
- ・ 7月7日(火)~7月20日(月)
英語副専攻カリキュラムアンケート実施
実施数: 約2,500枚
- ・ 英語力伸長度測定テスト (TOEIC® IP) 実施
1年次対象: 春学期 (プレイスメントテスト) 4月
1日(木)、秋学期 12月5日(土)
2~4年次対象: 春学期 4月11日(土)、秋学期
12月12日(土)

②ドイツ語教育研究室

- ・ 7月24日(金)春学期担当者連絡会
(池) 11号館A101教室 16:30~18:00
- ・ 2月24日(木)秋学期担当者連絡会
(池) 16号館第2会議室 16:30~18:00

③フランス語教育研究室

- ・ 7月7日(火)春学期担当者連絡会
(池) 12号館2階会議室 17:00~18:30
- ・ 12月12日(土)秋学期担当者連絡会
(池) 11号館A201教室 15:30~17:45

④スペイン語教育研究室

- ・ 7月23日(木)春学期担当者連絡会
(池) 13号館会議室 18:00~20:30
- ・ 2月3日(木)秋学期担当者連絡会
(池) 13号館会議室 18:00~20:30

⑤中国語教育研究室

- ・ 6月13日(土)春学期担当者連絡会
(池) マキムホール会議室 16:00~18:00
- ・ 12月5日(土)秋学期担当者連絡会
(池) 16号館第1会議室 16:00~18:00

⑥諸言語教育研究室

- ・ 7月29日(木)春学期担当者連絡会 (朝鮮語)
(池) 太刀川記念館第2会議室 17:00~19:30
- ・ 2月1日(月)秋学期担当者連絡会 (朝鮮語)
(池) 太刀川記念館第2会議室 17:00~18:30

<総合教育科目構想・運営チーム>

- ・ 4月9日(木)スポーツ実習科目担当者連絡会
(池) ポール・ラッシュ・アスレティックセンター
4階 13:00~16:00 *普通救命講習実施
- ・ 12月4日(金)「立教ゼミナール」「立教ゼミナール発展編」科目担当者連絡会
(池) 本館1203教室 18:30~20:00
- ・ 12月9日(木)「学びの精神」科目担当者連絡会
(池) マキムホールM302教室 18:30~20:00
- ・ 2月26日(金)2016年度第1回総合系科目担当者連絡会
(池) 8号館8201教室 17:30~19:30

<新任教員対象オリエンテーション>

- ・ 4月8日(木)
人事課主催オリエンテーション
「全カリについて」: 佐々木一也 (全カリ部長)

- ・ 3月31日(木)
ランゲージセンター主催オリエンテーション（新任教育講師対象）
佐々木一也（全カリ部長）、新野守広（言語チームリーダー）

- ◆司会
小泉哲夫（全学共通カリキュラム運営センター副部長・理学部教授）
*本シンポジウム筆録は、「大学教育研究フォーラム」第21号（2016年3月発行）に掲載

<授業評価アンケート関連>

- ①言語教育科目構想・運営チーム
【2015年度「授業評価アンケート」関連】
・全カリ言語教育科目「授業評価アンケート」実施（2015年度秋学期科目対象）
12月21日(月)～1月23日(土)
実施科目数：245科目
【「授業評価アンケート報告書」関連】
・全カリ言語教育科目「授業評価アンケート2014年度報告書」作成（2015年12月発行）
- ②総合教育科目構想・運営チーム
【2014年度「学生による授業評価アンケート」関連】
・2014年度「学生による授業評価アンケート」学部等総評の作成
【2015年度「学生による授業評価アンケート」関連】
・2015年度「学生による授業評価アンケート実施」
実施科目数：春学期145科目、秋学期156科目、計301科目

<公開講演会>

- タイトル：「全カリ教育の可能性～授業担当者が語る日本のコンテンツ産業」
日 時：2015年10月14日(水)18：30～20：30
池袋キャンパス 9号館大教室
プログラム：
◆登壇者
吉田正樹氏（株ワタナベエンターテイメント会長）
西野亮廣氏（タレント（吉本興業））
◆司会
郭洋春（経済学部教授）

<学外対応>

- ・ 6月25日(木) 早稲田大学 来学
- ・ 6月30日(火) 玉川大学 来学
- ・ 12月14日(月) 淑徳大学 来学

<シンポジウム>

- テーマ：「知識の現場」で育てる教養とは」
日 時：2015年11月16日(月)18：30～20：30
池袋キャンパス 太刀川記念館多目的ホール
プログラム：
◆発題
中島俊克（総合教育科目構想・運営チームリーダー・経済学部教授）
◆基調講演
高野孝子氏（早稲田大学教授／NPO 法人エコプラス代表理事）
◆事例報告
日向野幹也（経営学部教授）
逸見敏郎（学校・社会教育講座教授）
◆コメンテーター
山口和範（副総長・国際化推進機構長・経営学部教授）

<学会・シンポジウム参加>

- ・ 6月6日(土)・7日(日)
大学教育学会第37回大会参加
テーマ「ところで学生は本当に育っているだろうか？」
林英明・小島緑（全カリ事務室）
- ・ 11月28日(土)・29日(日)
大学教育学会2015年度課題研究集会参加
テーマ「連携」から広がる新たな時代の大学教育」
林英明・藤野裕介（全カリ事務室）
*課題研究集会についての報告は、本誌 p.6に掲載

全カリニュースレター No.39
印刷 2016.2.29
発行 2016.3.17
発行人 佐々木一也
編集人 小倉 和子、中島 俊克
発行所 立教大学 全学共通カリキュラム運営センター
印刷 株式会社 白峰社